

連載  
熱海市立図書館  
100年のあゆみ

第12回 (最終回)  
熱海市立図書館の  
コンセプト

問い合わせ：熱海市立図書館  
☎0557(86)6591

平成19年に図書館が現在の野中の地に移転した際、齊藤栄市長から「熱海市立図書館コンセプト」が提示されました。

その骨子こそ「歴史に学び、未来を築く、市民の図書館」です。

①「熱海の歩みを学べる図書館」

熱海市立図書館には、坪内逍遙をはじめ多くの皆さんから寄せられた貴重な歴史資料が多数所蔵されています。

図書館はこれまでも所蔵の資料を公開してきました。熱海は古い歴史をもつ街です。この街に住む人々が自分たちの街を愛し、街の成り立ちやそれを支えてきた多くの先人たちの功績に思いを寄せ、この街の歴史に興味や関心を抱けるよう、いつでも学べる図書館でありたいと思います。

②「市民が集える図書館」

図書館は、市民が気軽に来館し、

文化に学び、文化を習得し、体験できる中心地でありたいと思います。

現在でも、ボランティアによって多くの講座が開催されています。小さな子どもを連れた利用者を対象に「会話が出来る児童室」が試行され、安心して本を選び、本を読み進める親子の姿も増えてきました。市民の0歳児から貸し出しカードが作成され、老若男女が利用しています。これからも気軽に来館し、利用しながら情報交換ができるような温かな交流の場でありたいと考えます。

③「市民と共に創っていく図書館」

図書館は、熱海市の多くの施設の中でも市民一人ひとりが「自分の図書館」という気持ちを持って親しみ、育てていく施設でなくてはなりません。「図書館に行けば熱海がある」と言われるような熱海市立図書館でありたいと思います。

図書館の4階の中央には「温泉資料コーナー」があり、熱海の代名詞である温泉に関する新旧の資料がいつでも手に取って読めるようになっています。この図書館はどこにでもある図書館ではなく、熱海市民の図書館である、という主張がここに込められているのです。

これまでご紹介してきたように、熱海の図書館は大正天皇御即位の記念として大正4年11月10日に開館

し、名称も場所も変わってきましたが、常に多くの皆さんのご理解とご協力によって育ってきました。



現在の熱海市立図書館

坪内逍遙が熱海に「来遊者のため、又土地の男女のために、簡易なるしかしながら相応に蔵書の豊富なる図書館が必要」と考え、所蔵していた図書のを寄贈を続けた温かな心は、今日まで大勢の人々に引き継がれてきました。人々の支えにより100年の歴史を重ねることができたことに感謝し、今後も「熱海市民のための図書館」として、また「熱海の歴史を後世に伝え続け、学び続けることのできる図書館」であるために、市民の皆さんのご支援を心よりお願いし、「熱海市立図書館100年のあゆみ」の連載を閉じたいと思います。

市長メッセージ 98

I P P O あじろ園オープン

熱海市長 齊藤 栄



2月22日、療育教室「I P P O（いっぽ）あじろ園」がスタートしました。療育教室とは、発達の違いやその心配のある幼児を対象に、発達や集団性・社会性などを伸ばすための教室です。網代幼稚園内に開設し、市内では初めての療育教室になります。I P P Oには「始めの一步」「小さな一歩」の意味が込められていて、気軽に利用してもらえ、より柔軟に子どもたちをサポートできることにこだわりました。

今、発達障害や社会生活に適応できない子どもたちが増えてきていると言われています。子どもたちにとって最も大切なことは、療育教室のように専門的な指導の受けられる場所、一日でも早く適切なサポートを受けることです。少しでも心配や不安があったら、親御さんが気軽に相談できる、同じようなお子さんを抱える親御さん同士で話ができる、そういう場に「I P P O あじろ園」がなっほしいと思っています。

市の単独経費での運用となりますが、利用者にとっての利用しやすさなどをトータルで考え、運営の柔軟性を確保するために、制約の多い、法律に基づく事業所にはあえてしませんでした。近隣ではまだ珍しい試みです。

先日、障がい福祉をテーマとした全国最大規模のフォーラムに参加し、熱海での「福祉のパイロット（先駆的な）事業」の実施を事業者などに呼びかけてきました。「住まうまち熱海づくり」に向けて、福祉の分野でも新たな挑戦をしていきます。